

名馬伝来 背景探る

歴史フォーラム
「尾駮の駒」研究

六ヶ所

六ヶ所村が平安時代の名馬「尾駮の駒」の産地だったとする説の研究に取り組んでいる「尾駮の駒」歴史研究会は8月30日、村文化交流プラザ・スワニーで、

告知板

六ヶ所 30日に歴史フォーラム「尾駮の駒」歴史研究会が午前10時半から、六ヶ所村文化交流プラザ・スワニーで開く。昨年に続き、同村を平安時代の名馬の産地「尾駮の駒」とする説の背景を掘り下げる。

富山大学、聖徳大学名誉教授の山口博氏と東海大学考古学専攻教授の松本建速氏が基調講演。名馬の特徴とされたまだら模様が貴族の間で重宝された理由や、馬を飼う民族が同村に移住してきた可能性などを探る。入場無料。申し込み、問い合わせは同研究会の相内知昭会長(電話090・3752・0935)へ。

大学教授が講演

本年度の歴史フォーラムを開いた。大学教授2人が講師を務め、名馬とされたまだら模様の馬が日本に伝わってきた背景などを探った。



名馬とされたまだら模様の馬が日本に伝わってきた背景について解説する山口氏

フォーラムは今年が4回目、約120人が参加。富山大学、聖徳大学名誉教授の山口博氏がまだら模様について、東海大学考古学専攻教授の松本建速氏が馬を飼う民族が同村に移住してきた可能性について基調講演した。山口氏は中国などアジア

2015年 (平成27年) 9月5日(土曜日)

上十三むつ下北

諸国の文献の記録から「斑馬はユーラシア大陸を西から東へ伝わってきた。大陸の北を通り、船に乗せられ

「尾駮の駒」の謎解明しよう

研究会が歴史フォーラム



六ヶ所

六ヶ所村「尾駮の駒」歴史研究会(相内知昭会長)は8月30日、同村のスワニーで「歴史フォーラム2015」を開催した。古歌に詠まれた名馬の産地「尾駮の駒」は六ヶ所を指すとする同研究会の仮説に対して、各界の専門家が独自の知見を披露するなど、歴史の謎を解明するための視点について来場者が理解を深めた。

フォーラムは2012年から毎年開催。今回は国文学者の山口博・富山大名譽教授と「尾駮の駒」と六ヶ所の関連性について話す山口博名誉教授(左)と松本建速教授

考古学者の松本建速・東海大教授が基調講演を担当した。

山口名誉教授は地名にちなみ、まだら模様の動物を崇拝する文化が、古くからユーラシア大陸に広くあったことなどを紹介。この見方が「ユーラシア西部から東へ伝わり、日本にもたらされたのでは」と述べた。

松本教授は考古学の成果を基に、現在の南部地方には7世紀以降、移住による集落が増加し、その際に馬を飼う文化が移入したと解説。「みちのくの尾駮」六ヶ所説については、自然環境や地名などから、「現時点では最も近いと思う」とした上で、さらなる調査が必要だと強調した。

オープニングとエンディングでは、北東北地方で活躍する「雅楽みちのく楽舎」による舞踊や管弦演奏も行われ、来場者を楽しませた。

(井上周平)

デーリー東北

インフォメーション

六ヶ所で歴史フォーラム

六ヶ所村「尾駮の駒」歴史研究会(相内知昭会長)は30日、同村のスワニーで「六ヶ所村歴史フォーラム2015」を開催する。

午前10時半開始。山口博・富山大名譽教授や松本建速(たけはや)・東海大教授が、同村の馬を指すとされる「尾駮の駒」についての基調講演を行うほか、パネルディスカッション、雅楽演奏も行われる。

入場無料(資料代は200円)。問い合わせは相内会長へ(携帯電話090(3752)0935)。